

○ 演題名：「医療との連携」に関する現状と課題、現在の取組み
～会員アンケートの結果から～

所 属：藤枝市介護支援研究会

職 種：介護支援専門員・総合職

発表者：杉山 弘卓

共同研究者：藤枝市介護支援研究会
藤枝市地域包括ケア推進室

要旨

1) はじめに

2015年介護保険制度改正や地域包括ケアシステム構築では、「医療との連携」が取り分けケアマネジャーに求められ重要な役割になってくると想定されました。

また、藤枝市は2015年4月に介護福祉課の中に、地域包括ケア推進室を創設し、医療介護の横断的政策チームとして地域包括ケアシステム専門部会を立ち上げ、藤枝市介護支援研究会もその一員として代表を派遣しています。藤枝市介護支援研究会では、前述を背景に昨年「医療との連携」がどの程度実施され、どの様に感じまた何を課題と考えているのか、まず現状を把握するために会員向けアンケートを実施しましたのでその結果を報告します。加えてその後の地域包括ケアシステム専門部会で議論を重ねる中から、ケアマネジャーの抱えている課題に対してそれをサポートするいくつかの“しくみ”が構築しつつありますので報告します。

2) アンケート結果から

- ・「看取り」ケースも担当はしているが、経験回数が少ない人が多い。
- ・「医療との連携」を課題と感じるのは経験5年以上のケアマネ。経験2年未満では、「連携」自体を課題と感じている。

3) 現在の取組み

- ・顔の見える関係づくり…「在宅医療部会」月1回
- ・医療知識への支援…全体研修
藤枝市訪問看護ステーションネットワーク会議
患者対応110番・病棟回診同行
- ・主治医（往診医）探し…在宅コーディネーター

平成28年度 第5回ケアマネ発表大会

「医療との連携」に関する現状と課題、
現在の取り組み
～会員実態調査アンケート結果から～

平成28年6月12日(日)

アクティシティ浜松コンgresセンター31会議室

藤枝市介護支援研究会 杉山弘卓

藤枝市介護支援研究会の概要

- 藤枝市内に在住または勤務する介護支援専門員
- 会員数 約166名・56事業所(平成28年4月現在)(1事業所2.8人)
- 年会費 1,000円
- 運営委員 10人(手持ち弁当)
- 事務局(藤枝市介護福祉課)
 - *事務局のバックアップで運営できている
- 年6回の全体研修、病院との意見交換会、
ひとりケアマネの会、事例検討会、施設ケアマネ連絡会

「医療との連携」実態調査アンケートの概要

○背景

1. 地域包括ケアシステム構築の中で、病院・医師との連携が今まで以上に課題と思われた。
2. 医療的な知識が不足し、予後予測に見合ったプランになり得ていない場合がある・・という外部の声。
3. 藤枝市における地域包括ケアシステム専門部会の立上げ。

(病院医師・開業医・歯科医師・薬剤師・訪問看護・地域包括・ケアマネ・行政)

○調査期間 平成27年2月1日～3月31日

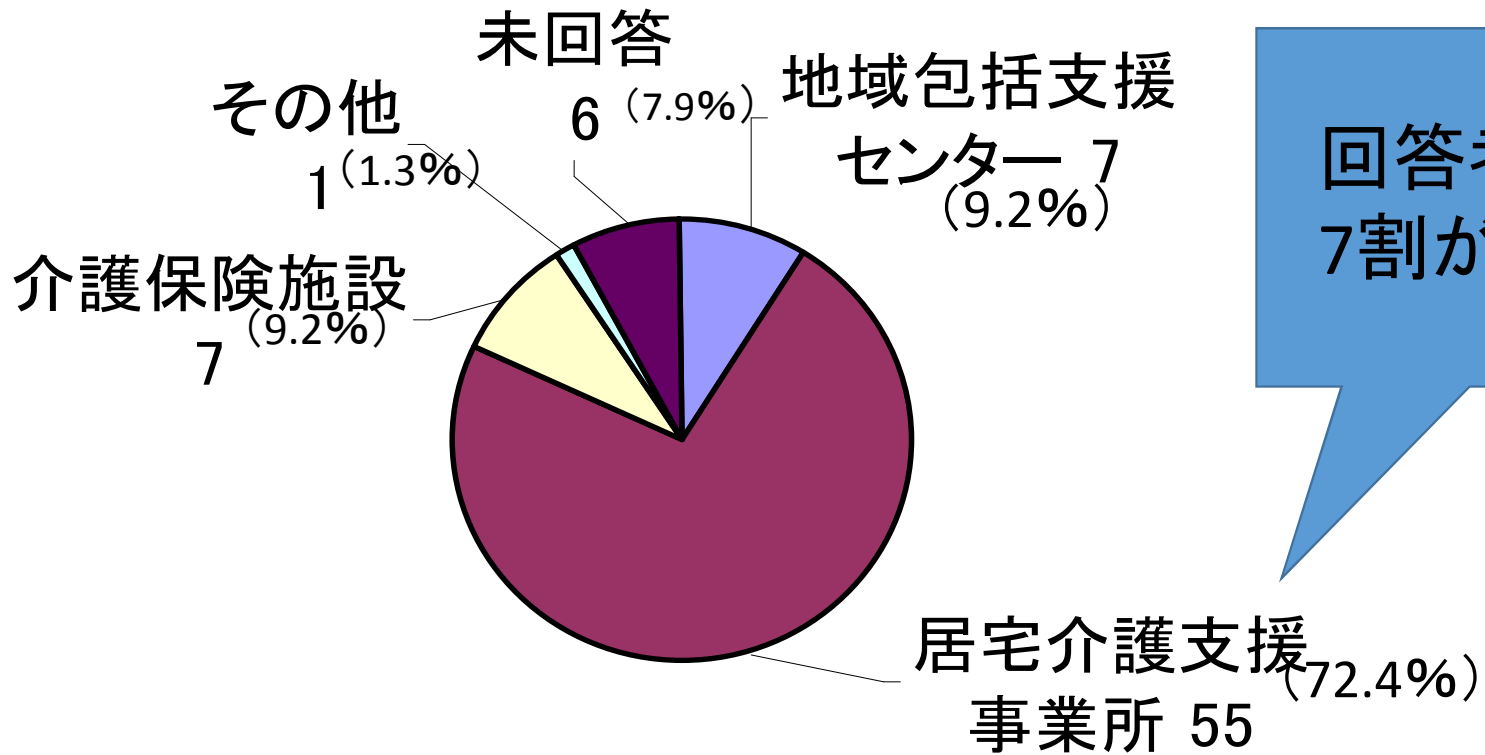
○有効回答数76／153人(49.6%)

「医療との連携」実態調査アンケート項目

○所属 ・ 経験年数

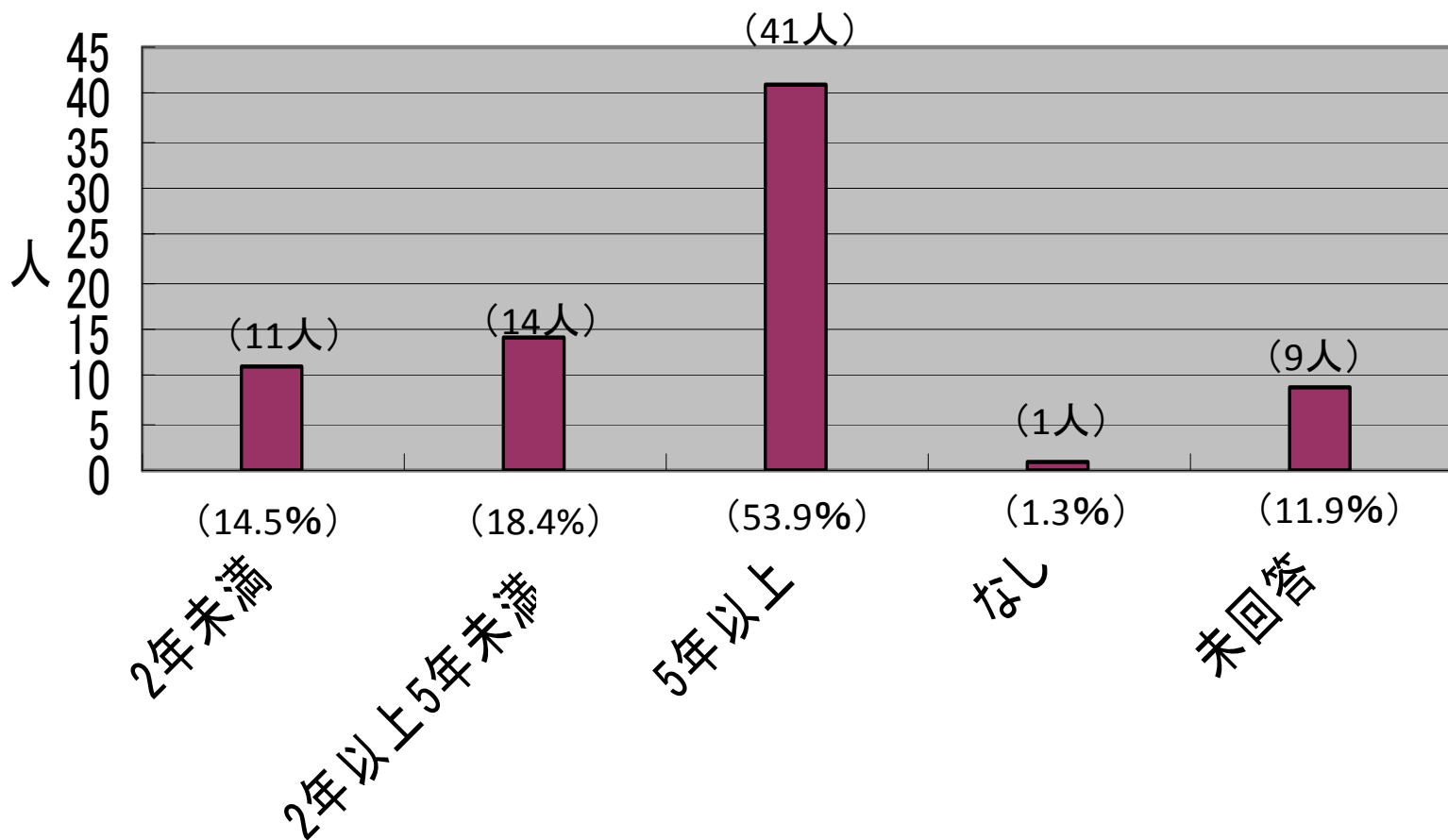
1. 総合病院に入退院したケース経験の有無。
2. 在宅看取りケース経験の有無。
3. 医療行為のあるケース経験の有無。
4. 医療系訪問サービス利用のあるケース経験の有無。
5. 「医療との連携」に関する自由記載。

所属



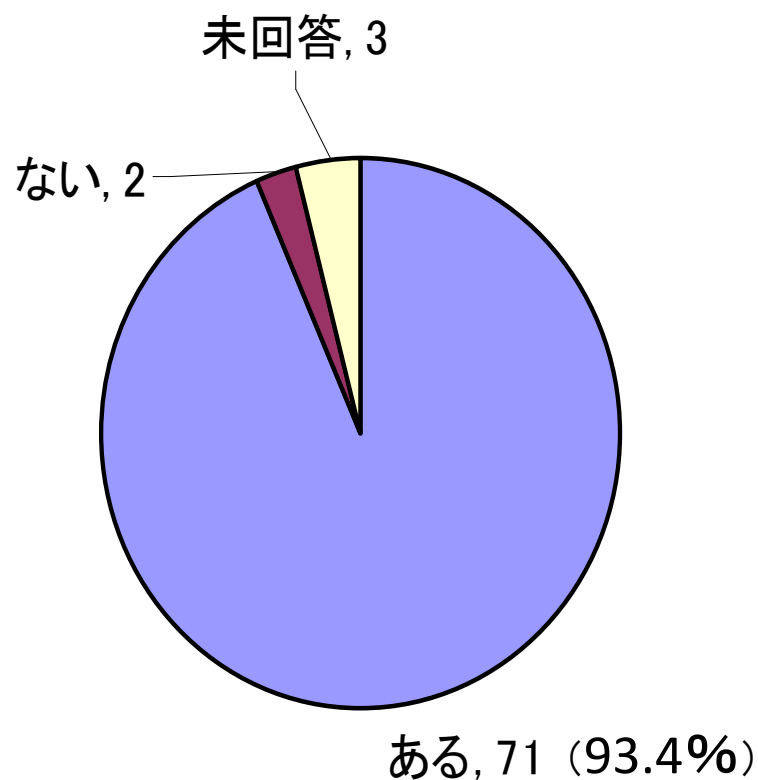
回答者の
7割が居宅

介護支援専門員の経験年数



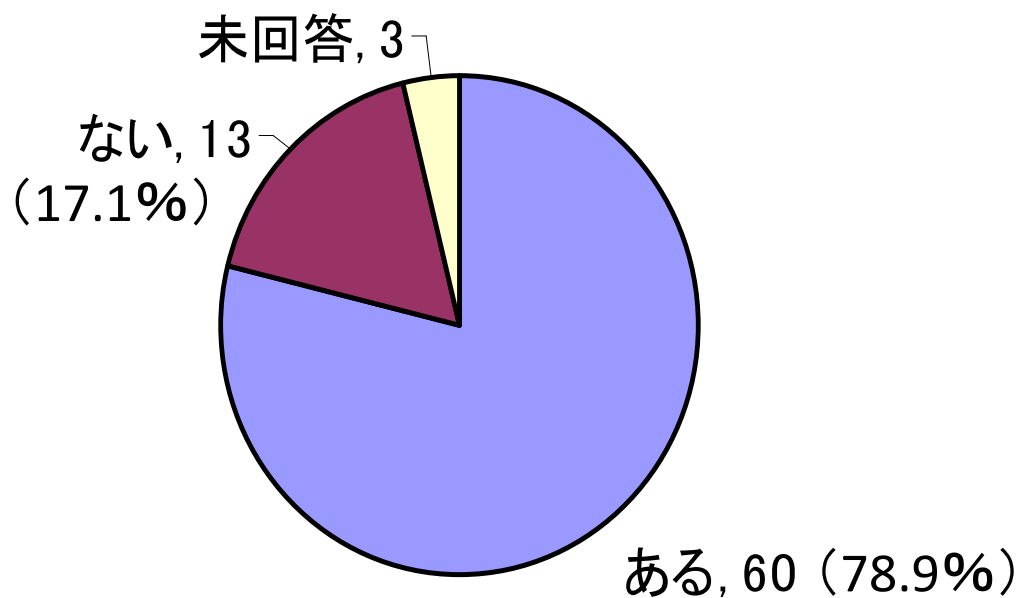
回答者の約
5割が5年以
上

1. 自分の担当ケースが急変し病院へ入院した経験、 また、病院から退院してくる経験がありますか



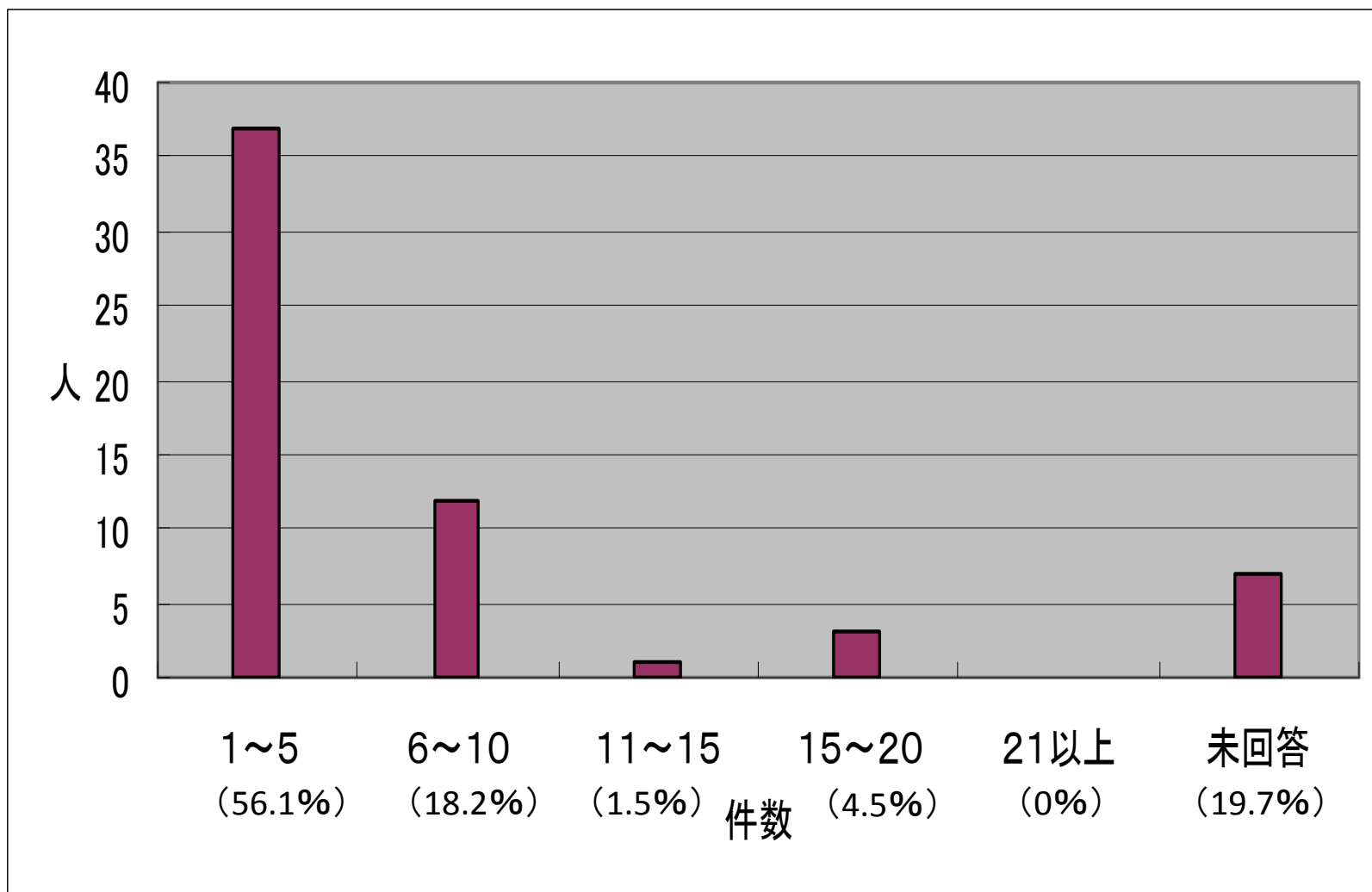
回答者の9割以上の人が入退院のケース経験がある。

2-1. 自分が今まで担当したケースで、在宅看取りをしたケースがありますか



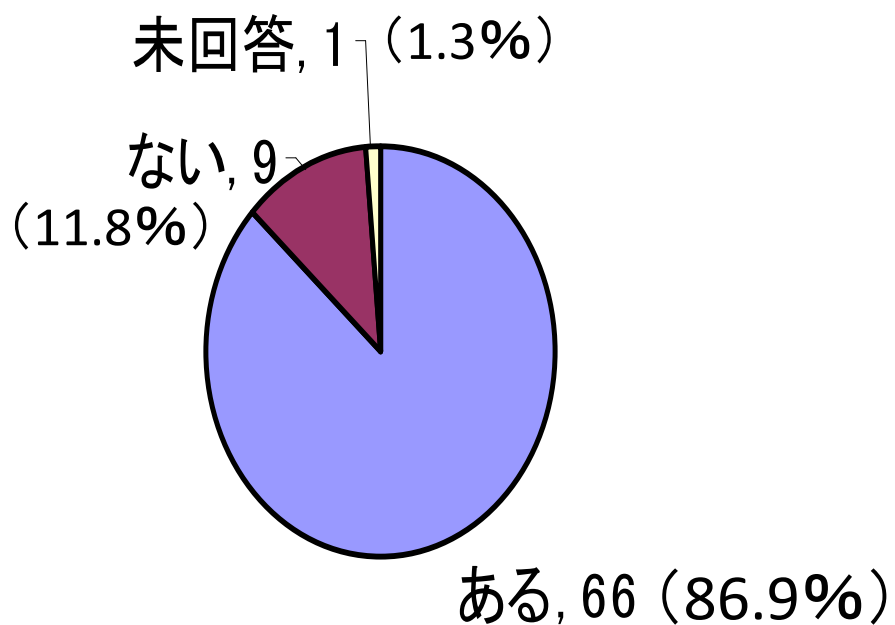
回答者の約8割の人が在宅看取りの経験がある。

2-2. ある方と答えた方は何件くらいですか。



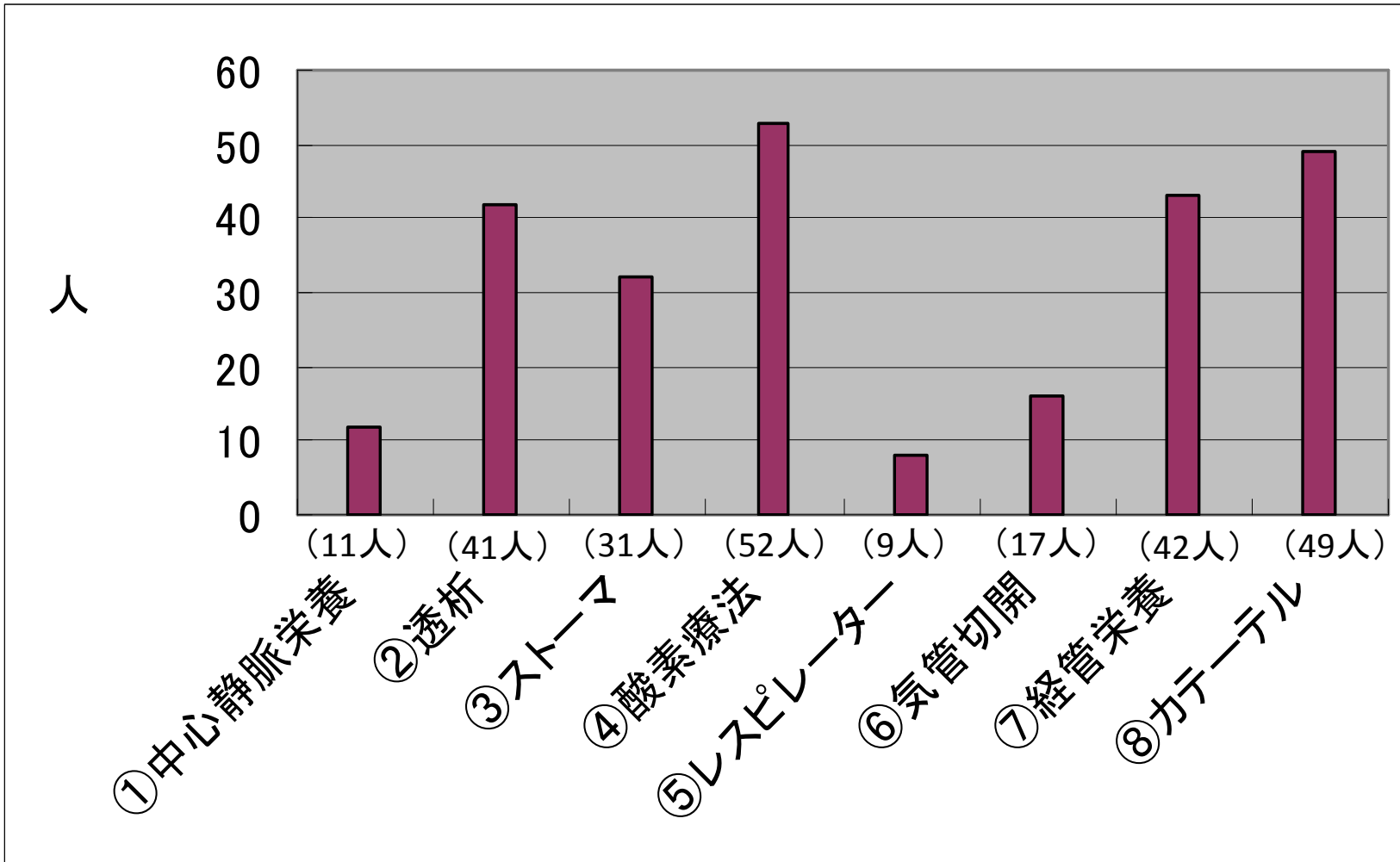
経験は有るが、5割強の人は在宅看取り経験が1~5人。

3-1.自分が今まで担当したケースに、医療行為のケースがありますか。



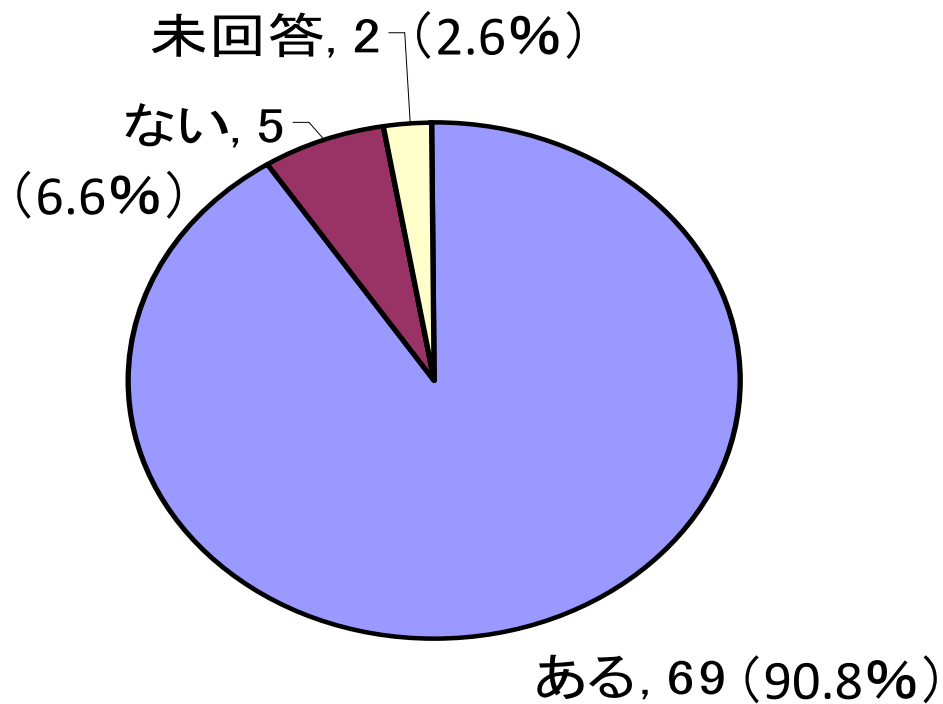
8割の人が医療行為のケース担当がある。

3-2. 経験した医療行為ケースに○印をつけてください。
(複数可。同じケースで重複はすべてに○印して下さい)



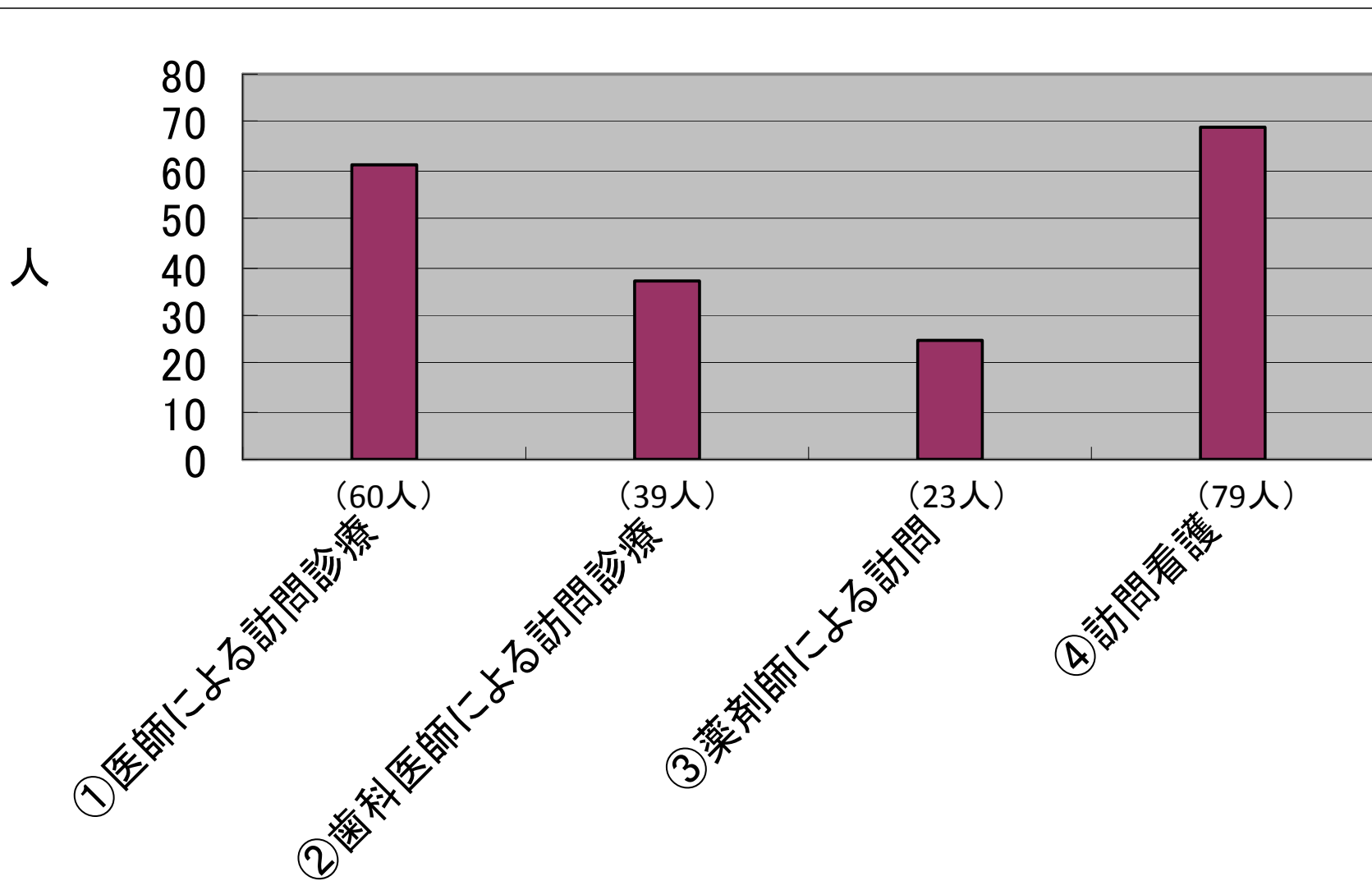
一番多いのは
在宅酸素療法。
気管切開の
ケースもある。

4-1.自分が今まで担当したケースで、医療系訪問サービスの利用がありますか。



9割強の人が、
医療系訪問
サービスの利
用がある。

4-2 経験した医療系訪問サービスに○印をつけてください。
(複数可。同じケースで重複はすべてに○印して下さい)



訪問診療・訪問看護は、利用がされている。

5-1 医療との連携に関する自由記載(経験2年未満)

- 医師に連携を求めるのに尻込みしてしまう。
- 連携を取る手順を知りたい。
- 往診、受診の立ち合いをさせていただいて、ケアマネがどこまで質問してよいかわからない。
- どの様にアポや連携してよいかわからない。他のケアマネさんの経験を聞きたい。
- 医師から「この方の命は後どのくらい」と具体的に教えていただいたが、自分に覚悟が出来ていず家族と一緒にアタフタしてしまった。
- 在宅看取りは些細な事が不安。ケアマネや家族に「このような場合はここへ相談する良い」とアドバイスがほしい。

5-2 医療との連携に関する自由記載(経験2~5年未満)

- 利用者の状態を先生や看護師から聞く事が、もう少し手軽に行なえると良い。
- 医療・介護、お互いに他分野の知識が少ないので、他分野について積極的に理解していく姿勢が必要。多職種でのカンファレンス等の研修があれば、お互いの分野を知る事ができる。
- 利用者の家族が在宅看取りを選択できるような情報提供の場があれば良いと思う。家族の理解や決断がはっきりしない場合の支援に迷った。
- 病院側から提示される退院後の生活支援方法とケアマネとしての方針にズレを感じる事(視点の違い)があり一致させていく場が必要。
- 病院相談員とケアマネが懇親会を持ち、コミュニケーションをはかる。

5-3-①医療との連携に関する自由記載(経験5年以上～)

- ケアマネの医療知識の向上が求められる。(複数回答)
- 医療知識の少なさを実感している。(複数回答)
- ケアマネも医師と対等に話せる知識を持つべき。研修してほしい。
- お互いが連携しやすい環境を作る。(病院が欲しい情報・ケアマネが欲しい情報)
- 病院でのカンファレンスで医療用語が把握できず、自己の勉強不足を感じる。(複数回答)
- ケアマネも病院も加算の為ではなく、その人の為に何が必要か、その支援の検討ができるが良い。
- 医師がケアマネから知りたい事、ケアマネが医師から聞きたい事それを共有したい。
- 顔の見えるつながりが必要。積極的に医師に会えるようにしている。

5-3-②医療との連携に関する自由記載(経験5年以上～)

- 亡くなった時や亡くなる前の本人・家族への気持ちの関わり方が難しかった。
- 介護者(家族)のゆらぐ気持ちを支えることに悩んだ。(複数回答)
- 最期に家族の気持ちが変わり、救急車を呼ぶことがあった。その時自宅で看取るつもりでいた、主治医との連携が大変だった。
- 先を見通してサービスを入れることが理想だが、そのタイミングが難しい。(訪問看護等)
- 独居で家族の支援が時々しか頼めないケースが難しい。

アンケートのまとめ(特徴)

- 経験年数を問わず、「医療との連携」に共通していたのは「顔の見える関係」の構築、必要性が回答で多かった。
- 経験年数が増すごとに、課題や悩みが具体的になっていく。2年未満は「・何を質問してよいかわからない」等、全体や自分の役割が消化されていない傾向がみられる。
- 2年以上5年未満になると、全体が見えてくることで、周囲との連携や問題点に気づくようになる。
- 「医療との連携」に必要な課題として、「医療知識の向上」を課題とあげた人は経験年数5年以上の人が圧倒的に多かった。
逆に2年未満の自由記載欄にはなかった。支援の全体像やケアマネの役割が見えてきて始めて、自身の医療知識の必要性を痛感している。(自己覚知)
- 経験を重ねて「つなげる力(連携)」を身につけている。(現状)

ケアマネサポートのしくみ

- 医師会主催「在宅医療部会」参加による顔の見える関係づくり。
（事例検討会等）
- 医療知識研修会。
- 医療なんでも相談。（藤枝市訪問看護ステーションネットワーク会議）
- 病院なんでも相談。「患者対応110番」・病棟回診同行（ケアマネ）
（藤枝市立総合病院患者相談室）
- 藤枝市立総合病院地域連携室との意見交換会。
（福祉用具、医療系サービス、入院時連携パス）
- 藤枝市在宅コーディネーターによる主治医（往診医）探し。

ご清聴ありがとうございました。